

【立川市教育委員会 教育目標】

- 生きる力を育み、確かな力、やさしい心、個を輝かせ、社会のために役立とうとするひとづくり
- いつでも、どこでも、だれでも自由に学べるひとづくり
- いきいき健康、生涯スポーツを目指すひとづくり
- 歴史や伝統文化を継承し発展させるひとづくり
- 国際社会で主体的に貢献し活躍するひとづくり

【立川第一中学校 教育目標】

- 知性を磨いて個性を伸ばそう（知性）
- 敬愛の心を深めてよい市民になろう（敬愛）
- 勤労を愛し責任を果たそう（勤労）

確かな学力・体力の向上

【立川市学力向上推進研究校と東京都学力向上パートナーシップ事業調査研究校としての取組の成果を通して】

- 「学力向上を図る全体計画」に基づく計画的実施 [概要]
- 授業改善と授業力向上に向けた取組 → 「分かりやすい授業」の確立
- <授業評価一分かりやすい授業と回答：80%以上を実現>
- 学習機会の拡充 → 補充教室等の組織的な実施 <各学習教室等の参加率：対象生徒の60%以上>
- 評価・評定の活用の工夫 → 学習のふり返りによる学習意欲の向上
- 家庭学習への支援 → 具体的な家庭学習の在り方について指導を展開 * 「家庭学習のしおり」を作成・配布（5月中旬）
- 「一校一取組」運動の推進 → 体力の向上

特別支援教育の充実

- 特支教育コーディネーターを中心とした支援体制の確立 → 校内委員会の定例化（月1回）
- 「個別指導計画」の作成と活用 → 支援を必要とする生徒の把握と支援の充実（年間）
- 特別支援学級（通級）や教育相談室との連携強化
- SC・ハートフルF・支援員の連携と効果的な活用 → 教育相談体制の充実

小・中連携教育活動の推進

【立川市教育力向上推進モデル校】

- 小中連携による効果的な教育課程の編成・実施 — → 「学力向上」に特化した連携教育活動の実現
- 教員派遣型の連携教育活動の展開
- 中→小：外国語活動授業支援・小→中：補充教室支援等
- プレスクールの充実 → 体験授業(9月)・部活動体験（8月）
- 「学力向上パートナーシップ事業」（東京都）の取組 * 国語+数学（算数）・英語（外国語活動）に重点を置いた学力向上の取組
- ボランティア活動の展開 — 運動会(小)ボランティア(9月)・小中合同ユニセフ街頭募金（12月）

【目指す学校像】

- 「安心して通わせられる学校」 <安全で快適な教育環境を提供>
- 「確かな学力と社会性を身に付けさせてくれる学校」 <公立学校の使命をしっかりと果たす>

【目指す生徒像】

- 確かな学力と豊かな個性をもった生徒
- 思いやりの心と規範意識をもった生徒

【目指す教師像】

- 立川一中を愛する教師
- 一日一日の授業を大切にする教師
- 生徒一人一人を大切にする教師

経営理念

— 公立学校は地域の財産 —

- ◆ 学校の教育活動に対する生徒・保護者の満足度 → 「立川一中生でよかった・立川一中に通わせてよかった」 <関係者評価—全項目で肯定的な評価（60%以上）を実現>
- ◆ 地域からの信頼度 → 多くの小学生が入学してくる学校 <関係小学校からの入学率：85%以上>
- 円滑な校務運営の実現と組織的な対応力の向上 —
- 基本的な考え方：職層と職責の整合性
 - 経営会議の定期開催(毎朝)
 - 企画調整会議の充実 — 調整機能の発揮 → 起案日程一覧に基づく進行管理
 - OJT実施体制の確立 → 若手教員の育成

社会性の確立

- 集団生活における基本的なルール指導の徹底 → 「ルールがマナーになる学校」の実現 → 「自ら考えて行動できる生徒」の育成
- 地域貢献活動(奉仕活動)の更なる推進 → 「地域に愛され認められる生徒」の育成 * 地域清掃（週1回）* 地域防災訓練への参加（6月）* ユニセフ街頭募金（12月）
- 基本的な生活習慣の確立 <関係者評価の肯定的評価：80%を実現> * 挨拶運動(月2回) ← 青少健・PTAとの連携
- いじめに関する対応 → 未然防止・早期発見・早期対応 * いじめに関するアンケート(年3回) <問題解決率：100%を実現>
- 人権感覚を大切にした教育活動の推進 → 人権教育プログラムを活用した人権課題への取組

安全安心な学校づくり

- 校内の危険箇所の点検と整備 → 校舎内の安全点検（毎日放課後・全教員）
- 危険を回避する力の育成 → 体験型セーフティ教室の実施（9月）
- 年間計画に基づく安全指導を展開 → 体験的な内容を取り入れた避難訓練を実施（毎月）

地域や保護者との連携

—説明責任・結果責任を果たす透明性の高い学校経営—

- 公開土曜日(年8回)+保護者会等の内容充実 → 公開日の内容・時程等の工夫 <保護者の参加率：前年度比20%増>
- 保護者対象の関係者評価（年2回） → 学校経営の見直し・改善に活用 <全項目：肯定的評価（60%以上）を実現>
- 市民力を活用した道徳授業地区公開講座の実施（7月） <地域・保護者の参加率：前年度比20%増>
- PTA運営委員会（公開土曜日後・年5回）の充実 → 学校情報の提供 ← 主任級幹部教員の参加
- 地域行事への教員参加 — 職層ごと職務として参加

平成26年度 学校経営計画

立川市立立川第一中学校

校長 國 島 健 二

1 立川市教育委員会 教育目標

- 生きる力を育み、確かな力、やさしい心、個を輝かせ、社会のために役立とうとするひとづくり
- いつでも、どこでも、だれでも自由に学べるひとづくり
- いきいき健康、生涯スポーツを目指すひとづくり
- 歴史や伝統文化を継承し発展させるひとづくり
- 国際社会で主体的に貢献し活躍するひとづくり

2 立川第一中学校 教育目標

- 知性を磨いて個性を伸ばそう（知性）
- 敬愛の心を深めてよい市民になろう（敬愛）
- 勤労を愛し責任を果たそう（勤労）

3 目指す学校

【目指す学校像】

- 「**安心**して通わせられる学校」 < 安全で快適な教育環境を提供 >
- 「**確かな学力**と**社会性**を身に付けさせてくれる学校」 < 公立学校の使命をしっかりと果たす >

【目指す生徒像】

- 確かな学力と豊かな個性をもった生徒
- 思いやりの心と規範意識をもった生徒

【目指す教師像】

- 立川一中を愛する ○ 一時間一時間の授業を大切にする ○ 生徒一人一人を大切にする

4 経営理念 — 公立学校は地域の財産である —

- 「学校の教育活動に対する生徒・保護者の**満足度**」

→ 「立川一中生でよかった・立川一中に通わせてよかった」 —

【関係者評価（保護者対象）：全項目で肯定的な評価（60%以上）を実現】

- 「地域からの**信頼度**」 → 多くの小学生が入学してくる学校

— 関係小学校からの入学率向上＝経営の成果指標 ← 説明責任・結果責任の果たせる経営を創造

【関係小学校からの入学率：85%以上】

— 今年度は「**教育内容の質的な向上を目指す年**」 —

5 教育活動の目標とその方策

＜確かな学力・体力の向上＞ — 東京都学力向上パートナーシップ事業の取組

■ 授業改善と授業力の向上 — 「分かりやすい授業」の確立 ← 教員の授業力向上

— 生徒が「分かった・できた」という実感 + 意欲と自信がもてる授業の展開 —

* 学習のねらいや学習活動の手順を提示 → 生徒が見通しをもつことのできる授業展開

* 個に応じた指導の充実 → 習熟度別少人数授業の実施

— 国語(1・2年) + 数学・英語(全学年) ← 習熟度別クラス編成の工夫

* 「授業改善推進マイプラン」の作成 → 実施 → 検証 → 改善のサイクルを確立

* 生徒による授業評価(授業改善アンケート)を実施(年2回)

【「分かりやすい授業」と回答する生徒:80%以上を実現】

■ 学習機会の拡充 → 学力補充の組織的・計画的実施

【各学習教室等の参加率:対象生徒の60%以上】

* 定期考査前の学習教室「ステップアップ教室」<年17日間>

— 自主学習コースと5教科復習授業コースを開設

* 定期考査前の学習教室「土曜学習教室」<年4回> — 学校関係者+大学生+地域人材を活用

* 夏季休業中の学習教室「サマースクール」<6日間> — 全教員+小学校教員+外部人材を活用

* 三者面談期間中の学習教室「ビルドアップ教室」<5日間> — 各学年副担任が中心となり実施

* 定期的な放課後学習教室「水曜学習教室」**新規事業**<月2回程度> — 学校関係者等を活用して実施

■ 評価・評定の活用の工夫 → 学習のふり返しによる学習意欲の向上

* 「各教科の評価方法」の作成 → 各学期始めに配布

* 「評価説明資料」を作成・配布+通知表(学習の記録) <終業式3日前配布>

→ 評価に関する質問期間(生徒・保護者対象)の設定

→ 学習状況のふり返しを次学期につなげる

* 生徒の自己評価を工夫 — 「学習ふり返しシート」の活用<各学期末>

* 学力の定着度の把握と管理 — 「個人カルテ」の作成と活用(1・2年国語)

■ 家庭学習への支援 → 家庭における学習習慣の確立

— 具体的な家庭学習の在り方についての指導を展開

* 「家庭学習のしおり」を作成 → 生徒(保護者)に配布(5月)

* 宿題提示の工夫 — 宿題の内容や努力した成果を発揮できる場の工夫

* 領域別学力診断テストの実施(年2回) → フォローアップシートの家庭学習への活用

□ 体力の向上 → 「一校一取組運動」の推進

* 体育会種目の工夫(5月) — チームジャンプ(大縄飛び)の導入

* 「一校一取組運動」 — 朝マラソン(11月~1月・週2回) ← 持久力の向上

<社会性の確立>

- 集団生活における基本的なルール指導の徹底
 - 「ルールがマナーになる学校」の実現 → 「自ら考えて行動できる生徒」の育成
- 地域貢献活動(奉仕活動)の更なる推進 → 「地域に愛され認められる生徒」の育成
 - * 生徒会活動の活性化 → 委員会活動や部活動を中核とした活動
 - * 地域清掃(週1回) — 部活動の練習開始前に実施
 - * 地域防災訓練への参加(6月) — 柴崎・富士見地区同一日に実施(一小・四小と合同実施)
 - 全生徒参加 → 中学生の役割の自覚
 - * ユニセフ街頭募金活動(12月・5日間 — 内1日は小中合同実施)
- 基本的な生活習慣の確立 【関係者評価の肯定的評価:80%を実現】
 - * あいさつ運動(月2回)を実施 ← 地域青少健・PTAとの連携活動
- いじめに関する適切な対応 【問題解決率:100%を実現】
 - 未然防止・早期発見・早期対応の徹底
 - * いじめに関するアンケートの実施(年3回)
 - * 学校いじめ対策委員会の設置 → 具体的な問題解決
- 人権感覚を大切にしたい教育活動の推進
 - * 人権教育プログラムを活用した校内研修会の開催(年3回)
 - * 人権感覚を高める環境整備 → 掲示物・作品等の日常点検(各学年主任)

<特別支援教育の充実>

- 支援体制の確立 — 特別支援コーディネーターを中心
 - * 校内委員会の定例化(月1回) → 具体的な支援・指導計画を策定
 - * 「個別指導計画」の作成と活用 → 支援を必要とする生徒の把握と支援の充実(年間)
 - * SC・ハートフルF・支援員の相互の連携と効果的な活用
- 特別支援学級(通級)や教育相談室との連携強化

<安全安心な学校づくり>

- 校内の危険箇所の点検と整備 — * 校内の安全点検(毎日放課後・全教員)
- 危険を回避する力の育成 — * 体験型セーフティ教室の実施(9月)
- 年間計画に基づく安全指導を展開
 - 体験的な内容を取り入れた避難訓練を実施(毎月)

<小・中連携教育活動の推進> — 立川市教育力向上推進モデル校(3カ年)の取組

- 小中連携による効果的な教育課程の編成・実施 → 「学力向上」に特化した連携教育活動の実現
- [今年度] — 研究組織の確立 + 試行的な取組を積極的に企画・実施 → 次年度:効果検証

□ 研究(活動)組織の充実

- * 一中校区校長会・小中連携(学力向上)推進担当者会の定期開催(月1回程度)
- * 学習指導分科会 — 教育課程検討部会・国語部会・数学(算数)部会・英語(英語活動)部会
生活指導分科会 — 生活規律(学習規律)を確立させるための連携の在り方を検討
児童・生徒交流分科会 — 「中学校生活への期待と目的意識」をもたせるための連携の在り方を検討
プレスクール(授業体験・部活動体験) 運動会ボランティア 等の企画・運営

□ 教員派遣型の連携教育活動の展開

- * 小 → 中: 補充教室支援(一小・四小教員 → 一中のサマースクール数学<基礎コース>担当:3日間)
- * 中 → 小: 外国語活動授業支援(一中英語科教員 → 一小・四小の6年英語活動授業を担当)

□ プレスクールの内容充実

- * 体験授業(9月) — 6年児童の選択制体験(2教科) * 部活動体験(夏季休業中)

□ 「東京都・学力向上パートナーシップ事業」の取組

- * 国語(指定された重点教科) + 数学(算数) + 英語(英語活動)に重点を置いた学力の向上

□ ボランティア活動の展開

- * 小学校運動会ボランティア(9月) * 小中合同ユニセフ街頭募金(12月)

<地域や保護者との連携> — 説明責任・結果責任を果たす透明性の高い学校経営 —

□ 公開土曜日(年8回) + 保護者会等の内容充実

- 公開日の内容・時程等の工夫 【保護者の参加率:前年度比20%増】

□ 保護者対象の関係者評価(年2回) → 学校経営の見直し・改善に活用

【全項目:肯定的評価(60%)を実現】

□ 市民力を活用した道徳授業地区公開講座の実施(7月) — 三多摩法律事務所との連携

【地域・保護者の参加率:前年度比20%増】

□ PTA運営委員会の充実(土曜公開日午後・年5回) — 学校情報の提供 ← 主任級幹部教員の参加

□ 教員の地域関係行事への積極的な参加 — 職層ごとに職務として出席

□ 学校ホームページの内容充実 ← 月2回以上の更新

[学校運営] — 円滑な校務運営の実現と組織的な対応力の向上 —

■ 基本的な考え方:職層と職責の整合性

- 経営会議(管理職・分掌学年主任・事務主任) <毎朝>の定期開催
- 経営支援部の設置 — 事務・用務職の経営参画意識の高揚
- 副校長の補佐機能の強化 — 副校長補佐職(1名)の設置 → 管候補の育成
- 補佐機能の充実 — 副役職(副校長補佐・各副主任)の設置 → 総合的な調整力を強化
- 「起案日程一覧」の作成(教務主任) → 適正な進行管理
- 若手教員(1年次~4年次)の育成 → 主幹教諭・主任教諭をOJT責任者に指名
— 担当するOJT対象者(若手教員)とOJT担当者の役割を明確化